

とっとりトピック

三徳山の迂回路が完成! 国宝「投入堂」も参拝可能に

鳥取県中部の三朝(みささ)町にある古刹・三徳山三佛寺。昨年10月の鳥取中部地震の影響で入山禁止でしたが、同寺の奥院にあたる国宝・投入堂(なげいれどう)への迂回路が完成、入山可能に。投入堂が建つのは、標高約520メートルの断崖絶壁。どうやって建てられたのか摩訶不思議で、麓で組み立て、法力で投げ入れたという伝説さえ納得してしまうほど。道のりの険しさから「日本一危ない国宝鑑賞」ともいわれますが、ぜひ出掛けてみて。



アクセス

電車…JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR鳥取(約3時間20分)
車…一宮IC→(名神高速道路→中国)→佐用JCT→鳥取自動車道(無料)で鳥取市街へ(約340km)

問い合わせ

ふるさと鳥取県産業・観光センター
住所/中区栄4-1-1 中ビル4階
電話/052-262-5411
<http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>

今回は、9カ国19人の砂像作家が集結。「作風の違いや作家の個性が出ますよ」とは、スタッフの山本真澄さん。例えば、細部に特にこだわっているのはロシア人作家で、西部開拓時代を再現した作品では建物の壁にも微

妙に凹凸をつけ、平らな部分を一切なくす凝りよう。「他に、アメリカ独立の象徴とされる『デラウェア川を渡るワシントン』の、はためく星条旗の質感は見事です」さらにこれらの砂像、制作に使われるのは砂と水だけで、展示が終われば、また砂に戻されま



「砂の世界旅行」と題し、世界各国の文化や歴史を砂像で表現してきた同館が、記念の第10期展示に選んだのは「アメリカ」。2層吹き抜けの展示室には、ハリウッドに代表される映画産業をはじめとした多様な文化、独立宣言やゴールドラッシュなど同国の歴史を紹介した19作品が展示されています。クライマックスは、リンカーンら4人の歴代大統領が並ぶ「マウントラッシュモア」とグラントキャニオン。手前に高さ3メートル・幅20メートルに渡って実際に水が流れる「ナイアガラの滝」もあり、文字通り圧巻の光景を見せてくれます。

堪能した後は、隣の八頭(やず)町にある「やずミニSL博物館 やずぼっぼ」(同町郡家493)へ。4月にオープンしたばかりの同館は、全国初となるミニSLの博物館です。「デゴイチ」の愛称で親しまれた「D51」など、全て手作りという計16車両を展示し、屋外には総延長125メートルの線路も設置されています。乗車体験(土・日・祝日、1人1回100円)では、石炭を燃やしたときの匂いやレールの振動の心地よさに誰もが「鉄っちゃん」に。副館長の山

少し足を延ばして ミニSL鑑賞と絶品パンケーキ

2つのメジャー級観光スポットを堪能した後は、隣の八頭(やず)町にある「やずミニSL博物館 やずぼっぼ」(同町郡家493)へ。4月にオープンしたばかりの同館は、全国初となるミニSLの博物館です。「デゴイチ」の愛称で親しまれた「D51」など、全て手作りという計16車両を展示し、屋外には総延長125メートルの線路も設置されています。乗車体験(土・日・祝日、1人1回100円)では、石炭を燃やしたときの匂いやレールの振動の心地よさに誰もが「鉄っちゃん」に。副館長の山

Present

鳥取特産「砂丘らっきょう」の甘酢「ピリ辛」を2個セットで5人に!



(写真上から時計回りに)ミニSL乗車体験/「やずぼっぼ」館内のミニSL車両/ココガーデンのパンケーキ

アバーサリーにかざわしい 圧巻のサンドアート

鳥取を訪れたら「まずは砂丘へ」と言いたいところですが、今回ばかりは「鳥取砂丘 砂の美術館」を目指しましょう。ここは、世界で唯一の砂像展示専門の屋内美術館。同じく「砂の美術館」と銘打った屋外テントでの展示時代も含め、丸10年を迎えた話題のスポットです。



(写真右上から時計回りに)3階の回廊から展示室を俯瞰/山本真澄さんと砂像「デラウェア川を渡るワシントン」/砂像「ニューヨークの摩天楼」/東西約16キロの広さを誇る鳥取砂丘。※「砂で世界旅行 アメリカ編」は2018年1月3日(水)まで。入館料600円(小中高生300円)

は、鳥取砂丘も同じ。緩やかな風が吹けば波の模様「風紋」が現れ、強風なら小石などの周囲の砂だけが運び去られて砂の小山「砂柱」が姿を見せませんが、同じ光景がずっと続くわけではありません。鳥取砂丘は今この瞬間も自在に表情を変えていきます。訪れたらまず、そんな自然の妙を楽しみましょう。

根徹さんは、「汽笛も本物顔負けですよ」と胸を張ります。八頭町まで足を延ばしたらぜひ訪れたいのが、「大江ノ郷自然牧場ココガーデン」(同町橋本877)併設のカフェです。看板メニューは、平飼いされた鶏の卵を使ったパンケーキ(680円)。モサモサした口当たりをみじんも感じない、とろける食感を求めて、遠方からも多くの人が訪れています。四方を囲む山の緑と青い空、大きな窓から降り注ぐ陽光と、ロケーションも二重丸です。楽しみがいつぱいの初夏の鳥取。まずは東部エリアから巡ってはいかがでしょうか。



お出掛けガイド

「砂の美術館」が開館10周年! 初夏の鳥取は楽しみ満載

日本海に面して続く海岸線、名峰・大山(だいせん)をはじめとする山々など、大自然に囲まれた鳥取県。出掛けるなら、やはり砂丘やその周辺を巡るのが基本にして王道です。10周年を迎える「砂の美術館」など「尽きない楽しみ」を求めて、いざ初夏の鳥取へ――。

企画・制作/中日新聞広告局